

## 英語落語から広がる夢・・・



先月、地元昭島市の国際交流の集いで、初めて英語落語を披露しました。演題は古典落語から「皿屋敷」と「天狗裁き」。それにマクラとして自分の日常生活から、床屋さんで散髪の料金値切り失敗のエピソード（「気まま随想」1月）と、ホームページの英西語の翻訳チェックの舞台裏（同4月）の嘶でした。



「皿屋敷」はご存知の方も多いと思いますが（怪談のネタにもなっている）、理不尽にも殺されたお菊の幽霊が毎晩、井戸から出てきて皿を勘定するというもの。「いちま〜い」「にま〜い」「さんま〜い」・・・と数えるその声のトーンが、聴衆の耳朶にいろいろな形で届いていきます。

「天狗裁き」は、夫・喜八が見た夢(実際には見ていない)について、なにがなんでも語らせようとした妻との夫婦喧嘩の波紋が奉行のところまで届き、縛り首の刑になるところを天狗に助けられた。その天狗がまた夢の内容について問いただし、答えなかった喜八は高い空から落とされ、うなされているところを、妻が「どんな夢を見たの?」と問いかける。夢の中の夢との重なりとどんでん返しのオチが面白く、半年前、桂文珍が日本語で語るのを聴いたときには、身を乗り出すように引き込まれたものでした。実は、そこから“いつか自分もこの作品を英語でやってみたい”なんて夢が芽生えていたのです。

おりしも、つい先ごろ、NHK番組「ものしり英語塾」で英語落語を特集していました。また10月からの朝ドラの主人公は女性落語家だそうです。さらに、たまたま6月に「ジャパントイムズ」から「英語で読む古典落語」の本がCD付で出版されたのです。そこで「今がチャンス!」とかじり始めた次第です。とはいえ、台詞のすべてを暗記するのはまだまだ難しい。アンチョコを見ながらの、しかも着物もなく、高座の座布団もない口演です。それでも、聴いてくださった在日の外国人の皆さん、また国際交流に関心を抱いている日本の皆さんからは、はじけるような笑いと拍手をいただいたのです。



66歳にもなってなぜ英語落語を? 先に述べた個人的な夢もですが、もう一つは自動車や電気製品などモノの輸出は大きな伸びを示しているのに対し、文化面では大幅な入超の日本で、文化の輸出に万分の一でも貢献できれば、なんて思い（少々大げさすぎるかなあ?）があったのです。一般に、政治次元の交流は力の関係に支配され、経済次元の交流は損得が基軸で、状況が変わればすぐに駐在企業の撤退ということも起きてきます。それに比べ文化の交流はお互いの国民の理解を深め、友好を永続させていく力になる。そしてどこの国のどんな市民でも、面白いユーモアのある話は好きだからです。

初の“公演”に気をよくしたドン・キホーテは、「ようし、今度は世界文学紀行の取材で訪れた国で、その皆さんにも披露してみよう。いつかはスペイン語でも!」なんて、見果てぬ夢を広げているではありますが・・・。

（イラスト：「英語で読む古典落語」から。英文の口演原稿は [English Page](#) で紹介しております）